

(様式1)

令和2年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 56	提案機関名 神奈川県畜産会
要望問題名 稲わらロールラップサイレージ生産給与体系確立への取り組み	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 伊勢原の酪農家でここ数年稲わらのロールラップサイレージを作成し経産牛に通年給与し、牛の状況もよく経営的にも非常に効果を挙げている事例がある。県内水田の稲わらの利用率は50%にも満たず多くが裁断され水田にすき込まれている状況。有用な酪農経営の飼料として①作成方法②飼料としての価値③給与にあたり補正する事項④資源として利用可能な条件、数量⑤経済的な有効性等検討されたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画研究課
対応区分	①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	稲わらの収集作業は、時間と労力が必要であり、また天候に大きく影響を受けるため、飼料として利用される割合は少なくなっています。稲わらの利用を促進するため、収穫後乾燥せずにロールラップサイレージに調製する生稲わらサイレージについて、他機関の研究で調製方法 <sup>※1</sup> 、乳牛 <sup>※2</sup> 及び肉牛 <sup>※3</sup> への給与方法等について多くの知見が得られています。 一方、経済性については、伊勢原市の酪農家の事例をはじめ県内でも興味ある事例があることから、情報を収集しながら普及指導課と協力して稲わらの利用を推進したいと考えています。		
解決予定年限	①1年以内    ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
備考	※1 徐ら（2006）日草誌53：166-169、吉野ら（2010）埼玉農総研研報10：57-60、馬場ら（2010）埼玉農総研研報10：61-63、渡邊（2014）秋田畜試研報28：1-5 ※2 山口ら（2010）兵庫農技総セ研報（畜産）46：22-27、布野ら（2011）島根畜技セ研報42：17-21 ※3 高平ら（2011）富山農林水産総セ畜研研報1：9-12、高平ら（2015）日草誌61：158-166		